



仙北市読書感想文コンクール表彰式

令和元年度仙北市読書感想文コンクール（仙北市教育委員会主催・角館図書館後援会、(株)新潮社後援）が行われ、応募総数 144 点の中から仙北市長賞小中学校の部に中村恭一さん（生保内小学校 1 年）、高校の部に藤岡莉子さん（角館高校 3 年）が選ばれました。
2 月 16 日には、仙北市総合情報センターで表彰式が行われ、入賞者に賞状と記念品が手渡されました。仙北市長賞受賞作品について、それぞれ原文のままご紹介します。

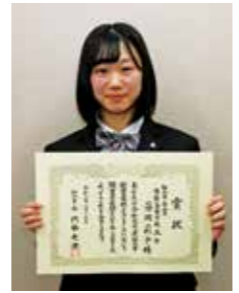
仙北市長賞 小中学校の部



『これはなんだろう？』
生保内小学校 1 年 中村 恭一
「これはなんだろう？」
おじいちゃんとはたけにいったとき、あなもあいていないのに、足が土の中にしずんでいくところがありました。よく見ると、ところどころ土がもこもこしていました。そういえば、おじいちゃんが、「うちのはたけにもぐらいるよ。」
「もぐらがとったところは、土がもりあがっているんだよ。」
と、おしえてくれたことがありました。ぼくは、もぐらのおうちでもあるトンネルを、足でつぶしてしまっていたのかなとしんばいになり、この本をよんでみることにしました。
そうしたら、「もぐらはすごい」とおもうことがたくさんありました。だいに、トンネルをほるのにやくだつするどいつめや、つよいうでがあることです。じぶんがおられるトンネルをほりながらす

すむなんてパワフルだとおもいました。だいに、もぐらがみみずや虫などをえさにしていることです。ぼくのうちはたけには、いろいろな太さのみみずやこん虫がたくさんいます。ぼくは、もぐらはたけのやさいをたべているとおもっていたけれど、生きものをたべていることをしり、おどろきがありました。だいに、ひふの下に目があり、土の中でも土が目には見えないことや、トンネルの中でも耳や毛がひっかからないことです。この三つのことだけでも、もぐらのからだは、せまいトンネルの中でくらすのにびったりだということをはじめてしりました。
この本には土の中でもぐらがどのように生きているのか、しらないことがたくさんかいてあります。ぼくは、ゆきがきえてあたたかくなったら、土がもりあがっているところを手がかりに、もぐらのトンネルをさがしてみようとおもいました。もし、ぼくのうちはたけのもぐらに出あうことができたなら、
「あのときはトンネルをこわしてごめんね。」
といたいです。
◆読んだ本『もぐらはすごい』（アリス館）

仙北市長賞 高校の部



『私が目指す保育者像』
角館高校 3 年 藤岡 莉子

私がこの本を読んでみたいと思ったきっかけは、学校の先生にすすめていただいたことです。私は保育士、幼稚園教諭を目指しており、四月から短期大学のこども学科への入学が決まりました。そんなときに学校の先生が「教育とか、保育に携わる人にはこの本がおすすめでよ。」とすすめてくださり、興味を持ち読んでみようと思えました。
この本は、作者である木村秋則さんのもと勤めていた会社を退職してまで、地元である青森に戻り、りんご栽培を中心とした農業に専念します。そして、農業で家族が健康被害にあったことをきっかけに、無農薬、無肥料のりんご栽培を始め、収穫ゼロ、収入ゼロの時期を乗り越え、十年かけて

完全無農薬、無肥料栽培に成功した実話です。
私はこの本を読んで、作物を育てることは子どもを育てる、教育することにとっても似ていると感じました。子どもの免疫力を高めたいのなら、むやみに薬は与えない方がいいと思うし、子どもが食べるものには気を使ったり、栄養のあるものを与えたりする必要がありそうです。もちろん、栄養だけでなく、愛情がなければ作物を育てることも、子どもを育てることも、教育することもできません。木村さんが十年間、無収穫、無収入の中でもりんごの栽培にチャレンジし続けられたのも、りんごへの深い愛情があったからこそだと思います。保育園、幼稚園は子どもの命を預かる現場です。そこで働く保育者にとって責任感、視野の広さは必要不可欠だと思っています。木村さんが最後まで妥協せず、自分の理想のりんごを追求し続ける覚悟、作物の異変にいち早く気づく視野の広さ、その異変に臨機応変に対処できるところは見習いたいと思つたし、木村さんのような何があっても諦めない強い心を持ちたいと思いました。また、木村

令和元年度 仙北市読書感想文コンクール審査結果 (学校名・学年・氏名 ※敬称略)

- ◆小・中学校の部
 - ◆仙北市長賞 生保内小学校 1 年 中村恭一
 - ◆新潮文庫賞 西明寺中学校 2 年 佐藤優美
 - ◆角館図書館後援会長賞 神代中学校 2 年 尾樽部 ころ
 - ◆仙北市教育長賞
 - ◆西明寺小学校 3 年 蘭藤秀
 - ◆西明寺小学校 6 年 畠山紗依
 - ◆奨励賞 小学校低学年の部 生保内小学校 2 年 堀川若葉
 - ◆奨励賞 小学校中学年の部 角館小学校 4 年 佐田史穂
 - ◆奨励賞 小学校高学年の部 生保内小学校 4 年 田口亜依
 - ◆奨励賞 小学校低学年の部 神代小学校 5 年 藤井咲那
 - ◆奨励賞 小学校 6 年 門脇みなみ
 - ◆奨励賞 中学校の部 西明寺中学校 3 年 櫻田玲愛
 - ◆奨励賞 角館中学校 3 年 鈴木杏那
 - ◆入選 小学校低学年の部 角館小学校 1 年 佐々木聡祐
 - ◆入選 小学校中学年の部 白岩小学校 3 年 草薙瑚那
 - ◆入選 小学校高学年の部 松木内小学校 3 年 浅利来夢
 - ◆入選 西明寺小学校 5 年 澤山ころ
 - ◆入選 西明寺小学校 6 年 木元ひなた
 - ◆入選 中学校の部 角館中学校 2 年 鈴木歌乃
 - ◆入選 松木内中学校 3 年 武藤涼子
- ◆高校の部
 - ◆仙北市長賞 角館高校 3 年 藤岡莉子
 - ◆新潮文庫賞 角館高校 3 年 石郷岡麟
 - ◆角館図書館後援会長賞 角館高校 3 年 高橋優日

- ◆仙北市教育長賞
 - ◆角館高校 3 年 高橋柚那
 - ◆奨励賞 角館高校 1 年 細川千鶴
 - 角館高校 3 年 田中野々花
 - 角館高校 3 年 藤原那美
 - 角館高校 3 年 樋口拓馬
 - 角館高校 3 年 羽川菜月
 - ◆入選 角館高校 3 年 小松尚樹
 - 角館高校 3 年 佐々木一生
 - 角館高校 3 年 小松彩世
 - 角館高校 3 年 山形凌夏
 - 角館高校 3 年 佐藤夢夏



入賞者にはそれぞれ賞状と記念品が贈られました。

さんが木、一本一本に声をかけていたように、子ども一人一人とコミュニケーションをとることは子どもの成長過程において大事だと思います。子どもの中にはコミュニケーションをとるのが苦手な子もいると思います。そういった子でも木村さんが長い年月をかけて無農薬、無肥料のりんご栽培を成功させたように、時間をかけてその子のペースに合わせて接していくことでコミュニケーションが取れるようになっていくと思います。木村さんは農業の土台である土から自分の農業について見直したことでりんご栽培を成功させました。子どもを育てること、教育することにいても基礎ができていなければ、子どもに何かを求め、それを子どもが実行できなくても仕方がないと思います。一つ一つできる事を増やせるように支え、段階的な成長を見守っていきけるような保育者を目指したいです。
そして、私は木村さんが、ただ無農薬、無肥料が大事という事だけを訴えるだけでなく、作物への感謝や、家族、りんごへの愛、自然の敬意などにも焦点を当てていることが印象的でした。私たちが